

## 医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	認知症模擬患者（SP）を用いた在宅看護学演習の学習効果
研究責任者	鈴木みずえ
研究機関名	浜松医科大学地域看護学講座
研究目的と意義	<p>先進国の中でもわが国の超高齢化は類をみないほど著しく、2013年 で高齢化率は25.1%となった。認知症高齢者が急増し、軽度認知機能 障害も含めて4人に1人が認知機能障害の症状があると指摘されてい る。認知症高齢者は記憶障害だけでなく、言語障害、知覚障害や認知 症独特の症状などからコミュニケーションの障害が看護を困難にして おり、看護基礎教育や卒後教育においても専門知識と技術を深め統合 させるためにリアルな現実に近い体験学習が必要である。</p> <p>本研究では在宅看護学において訪問看護に必要な態度・技術・コミ ュニケーションを学ぶことを目的には、SPセッションを2年次（在 宅看護方法論）および3年次（対象別在宅看護論）に実施した。学生 はどちらかの演習においてSPセッションを1回体験し、体験しない セッションでは他の学生の様子を観察した。これらの一連の演習でSP を活用した演習の学習効果を明らかにしていきたい。</p> <p>【研究目的】本研究では、在宅看護学の2年次あるいは3年次のどち らかの演習で必ず1回SPセッションを実施した学生の学習効果を明 らかにする。</p>
研究期間	西暦2015年11月（倫理委員会承認後）～2019年3月
研究方法	<p>●対象者：2015年1月6日在宅看護方法論の模擬患者（SP）セッショ ン、または2015年6月22日の対象別在宅看護論の模擬患者（SP）セ ッションを受けた看護学科3年生</p> <p>●研究方法</p> <p>平成27年6月22日の対象別在宅看護論の模擬患者（SP）セッション終了 後に全員の学生に無記名のアンケートの記入を依頼した。本研究では、 アンケート結果を分析する。無記名であり、学生本人は特定できない。</p>
問い合わせ先	<p>〒431-3125 浜松市東区半田山一丁目20番1号 浜松医科大学地域看護学講座 担当者：鈴木みずえ TEL：053-435-2831 FAX：053-435-2831 E-mail：m~suzuki@gmail.com</p>